

義に過ぎず、賢きに過ぎず

コヘレトの言葉 7 : 16~17

▶新共同訳

善人すぎるな、賢すぎるな／どうして滅びてよかろう。

悪事をすごすな、愚かすぎるな／どうして時も来ないのに死んでよかろう。

▶聖書協会共同訳

あなたは義に過ぎてはならない。賢くありすぎてはならない。どうして自ら滅びてよかろう。

あなたは悪に過ぎてはならない。愚かであってはならない。あなたの時ではないのに、どうして死んでよかろう。

▶口語訳

あなたは義に過ぎてはならない。また賢きに過ぎてはならない。あなたは どうして自分を滅ぼしてよかろうか。

悪に過ぎてはならない。また愚かであってはならない。あなたは どうして、自分の時のこないのに、死んでよかろうか。

▶KING JAMES BIBLE 欽定訳

Be not righteous over much; neither make thyself over wise: why shouldest thou destroy thyself?

Be not over much wicked, neither be thou foolish: why shouldest thou die before thy time?

中国戦国時代（紀元前 5 世紀から紀元前 221 年）に「^{くつげん}屈原」という役人がいました。彼は正義感が強く、清廉潔白な人でした。楚の懷王（在位：紀元前 328/329～299 年）に重んじられ、国政を執ってすぐれた手腕を発揮しました。

しかしその一徹で正義感溢れる性格が災いし、彼を快く思わない者たちから妬まれることとなり、策略により、国を追われ辺境の地に左遷、流浪の身となりました。

屈原は川のほとりに一人立ち、天を仰ぎ濁世を嘆きました。するとそこへ一人の舟に乗った漁師が現れ、言いました。「確かにそうかもしれないが、濁世にひとり、高く己れを守って生きる以外の道はまったくお考えにならなかったのですか」。これに対し、屈原は断固として、「この身に世俗の汚れを受けるくらいなら川の流に身を投じて魚の餌になった方がましだ」と言いました。

すると漁師は言いました。「川の水が清らかに澄んだ時は自分の冠のひもを洗えば良い。もし川の水が濁ったときは自分の足を洗えば良い」と。

大河の水は、ときに澄み、ときに濁る。いや、濁っていることのほうがふつうかもしれない。そのことをただ怒ったり嘆いたりして日を送るのは、はたしてどうなのか。なにか少しでもできることをするしかないのではあるまいか。私はひそかに自分の汚れた足をさすりながら、そう考えたりするのである。

大河の一滴 五木寛之 著 1998 (幻冬舎文庫) P.55～58

漁師の歌声

滄浪之水清兮（滄浪の水清まば）

可以濯吾纓（以て吾が纓[えい]を濯[あら]う可[べ]し）

滄浪之水濁兮（滄浪の水濁らば）

可以濯吾足（以て吾が足を濯う可し）

滄浪の水が清らかに澄んだときは

自分の冠のひもを洗えばよい

もし滄浪の水が濁ったときは

自分の足でも洗えばよい

【参考】菜根譚 前集 186 項

持身不可太皎潔。一切汚辱垢穢、要茹納得。與人不可太分明。一切善惡賢愚、要包容得。

身(み)を持(じ)するに太(はなは)だ皎潔(こうけつ)なるべからず。一切(いっさい)の汚辱垢穢(おじよくこうあい)をも茹納(じょうのう)し得(え)んことを要(よう)す。人(ひと)に与(くみ)するには太(はなは)だ分明なるべからず。一切の善惡賢愚(ぜんあくけんぐ)をも、包容(ほうよう)し得(え)んことを要す。

我が身を安全に保つにはあまり潔癖であってはならない。全ての汚(よご)れも穢(けが)れも併せ呑む必要がある。人とうまくやっていくには、割り切り過ぎてはいけない。全ての善人、悪人、賢人、愚民も受容できる度量が必要がある。つまり、極論に走らず、大きな心で、結局は相対的な善惡、賢愚など併せ持たなければ真の清廉潔白は実現せず、時に「清濁併せ呑む」ことが必要である。

【参考】中 庸

菜根譚 前集 84 項

清能有容、仁能善断。明不傷察、直不過矯。是謂蜜餞不甜、海味不鹹、纔是懿德。

清(せい)なるも能(よ)く容(い)るる有り、仁(じん)なるも能(よ)く断(だん)を善(よ)くす。明(めい)なるも察(さつ)を傷つけず、直(ちよく)なるも矯(きょう)に過ぎず。是れを蜜餞(みつせん)甜(あま)からず、海味(かいみ)鹹(から)からずと謂(い)う。纔(わず)かに是れ懿德(いとく)なり。

偏りのない、均衡を保つ賢明さ

清廉潔白でありながら包容力があり、情け深いが決断力もある。頭脳明晰でありながら批判的に人を傷つけることは無く、正直だが介入的でない。つまり、立派な人とは硬軟両面を持ちつつ、行き過ぎも無い人である。過ぎたるは猶お及ばざるがごとし。正に、**行き過ぎは充分でないのと同じことである。**

タイトル(書名)		聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 偏]
章:節 聖句	[検索対象総数: 5 / 聖句等の総数 33250 <偏>5個]	
K レビ記	19:15 あなたたちは不正な裁判をしてはならない。あなたは弱い者を偏ってかばったり、力ある者におもねってはならない。同胞を正しく裁きなさい。	
K 申命記	1:17 裁判に当たって、偏り見るものがあってはならない。身分の上下を問わず、等しく事情を聞くべきである。人の顔色をうかがってはならない。裁判は神に属することだからである。事件があなたたちの手に負えない場合は、わたしのところに持って来なさい。わたしが聞くであろう。」	
K 箴言	28:21 人を偏り見るのはよくない。だれでも一片のパンのために罪を犯しうる。	
S テモテへの手紙 I	5:21 神とキリスト・イエスと選ばれた天使たちとの前で、厳かに命じる。偏見を持たずにこれらの指示に従いなさい。何事をするにも、えこひいきはなりません。	
S ヤコブの手紙	3:17 上から出た知恵は、何よりもまず、純真で、更に、温和で、優しく、従順なものです。憐れみと良い実に満ちています。偏見はなく、偽善的でもありません。	

【参考】東照(徳川家康)公御遺訓

人の一生は重荷を負て遠き道をゆくが如し。いそぐべからず。

不自由を常と思へば不足なし。ところに望みおこらば困窮したる時を思ひ出すべし。

堪忍は無事長久の基、いかりは敵とおもへ。

勝事ばかり知て、まくる事しられれば害其身にいたる。

おのれを養て人をせむるな。

及ばざるは過ぎたるよりまされり。